



MORIMURA SEMINAR

かつまた・くらたけ

2010.6.23.WED



このような手法が可能な

— 一般衆の芸術作品の真の理解の為に —

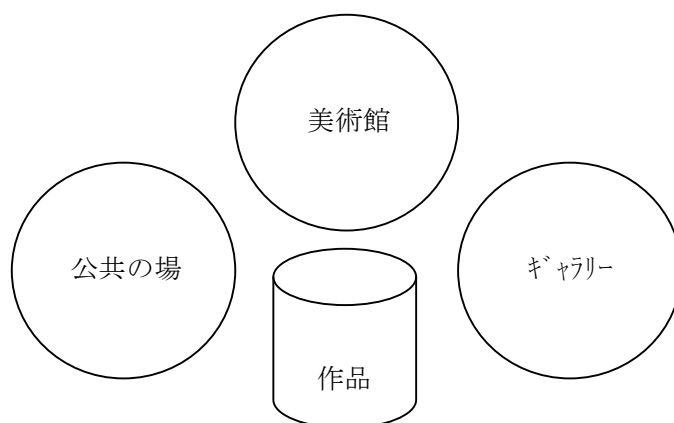
作品とコンテキスト—形式の戦略—

■ 芸術を鑑賞する公衆

- ・ 作品自体（形式）には興味を持つが、作品の役割（メッセージ）を見ない人
- ・ 作品の役割（メッセージ）に興味を持つが、作品自体（形式）を見ない人

⇒両者とも芸術作品の正当な価値を理解・評価できない

■ 観衆が作品に出会うコンテキストの重要性



⇒それぞれ違う目を持つ

EX) グラーツ市でのハンス・ハーケの作品

⇒政治的表明と捉える

■ 「形式」と「メッセージ」の重要性

「形式」を通して「メッセージ」が発せられる。

「形式」がないと「メッセージ」が伝達されない。

⇒2つの組成物の統合が重要

☆ 特定のコンテキストのために意図的にする仕事

⇒コンテキストの象徴的環境=素材

⇒他の場所に移動させることは不可

どのような手法が可能か—理性のリアルポリティークに向けて—

- 一部の芸術作品（や研究）の、公衆との断絶
 - 秘教的な作品（や秘境的な言語を使っている研究）は、予備知識のある人たちや、分別のある人たちにしか理解できない
 - 知識人たちは、研究と大衆の間には隔たりがあるのはやむを得ないと認めてしまっている

例) 「いつか、ダルシー・セプテンバーのライオンたちが歓喜の水を噴き上げるだろう」

→HHの期待とは裏腹に、誰もANCや南アフリカの国旗の色を知らなかった。そのため、HHのメッセージが伝わらない

- 公衆との断絶の問題に対する一つの解決案
 - 口承伝承のなかの詩人たちのやり方のように、いくつかの違ったレベルにたいしてメッセージを作る
 - 詩人たちは、①すべての人に聞いてもらえる言説、②ある数人にたいしてのみ理解できる秘境的解釈、両方を持つ

HHの意見・・・秘境的なレパートリーの中にはない、作品を豊かにする手段が必要

PBの意見・・・研究者、芸術家、演劇人、コミュニケーションの専門家（広告関係者、グラフィック・デザイナー、ジャーナリストなど）を含んだチームを集めるべき。象徴的な力と同様の力を動員すべき

結論・議論のテーマ

HHやPBは、公衆との断絶の問題を解決するために、①芸術作品を豊かにする、②理解しやすいものを作る、③広告を使って動員数を増やす、などの手法を挙げている。しかし、これらの手法は、多くの公衆を巻き込むことができる反面、芸術作品の「形式」が先行してしまい、「メッセージ」を伝えることを困難にしているのではないだろうか。

また、公的資金やメセナに支えられている美術館の現状に批判し、議論してきた彼らの結論が、その状況を変えるのではなく、その状況に妥協している部分にも疑問を感じる。彼らの手法について、議論します。